

CASBEE[®] あいち

評価結果

■使用評価マニュアル: CASBEE-建築(新築)2016年版+あいち版手引き | 使用評価ソフト: CASBEE-BD_NC_2016(v3.0)_AICHI

1-1 建物概要		1-2 外観	
建物名称	(仮称)ダイヤパレスー宮駅前Ⅱ	階数	地下0階地上15階
建設地	愛知県一宮市本町三丁目10番17、18、19、21、30、31、32	構造	RC造
用途地域	商業地域	平均居住人員	344人
気候区分	6地域	年間使用時間	8,760時間/年
建物用途	集合住宅	評価の段階	実施設計段階評価
竣工時期	2024年11月 予定	評価の実施日	2023年6月30日
敷地面積	1,117 m ²	作成者	片山 弘
建築面積	747 m ²	確認日	2023年7月7日
延床面積	6,683 m ²	確認者	片山 弘



2-1 建築物の環境効率 (BEEランク&チャート)

BEE = 1.2

2-2 ライフサイクルCO₂(温暖化影響チャート)

標準計算
①参照値 100%
②建築物の取組み 77%
③上記+②以外の 77%
④上記+ 77%

2-3 大項目の評価 (レーダーチャート)

2-4 中項目の評価 (バーチャート)

Q のスコア = 3.0

Q1 室内環境

Q1のスコア = 3.4

Q2 サービス性能

Q2のスコア = 2.9

Q3 室外環境 (敷地内)

Q3のスコア = 2.7

LR のスコア = 3.3

LR1 エネルギー

LR1のスコア = 4.0

LR2 資源・マテリアル

LR2のスコア = 2.7

LR3 敷地外環境

LR3のスコア = 3.1

3 重点項目

<h4>①地球温暖化への配慮</h4> <p style="font-size: 2em; color: green;">3.9</p>	<h4>③敷地内の緑化</h4> <p style="font-size: 2em; color: green;">2.0</p> <p>外構緑化指数(外構緑化面積/外構面積)</p> <p style="text-align: center; font-size: 1.5em;">43.4 %</p> <p>建物緑化指数(建物緑化面積/建築面積)</p> <p style="text-align: center; font-size: 1.5em;">0.0 %</p>
<h4>②資源の有効活用</h4> <p style="font-size: 2em; color: green;">2.7</p>	<h4>④地域材の活用</h4> <p style="font-size: 2em; color: green;">1.0</p> <p><外装材に使用した地域性のある材料></p> <p>なし</p> <p><建物の構造材・内装材、外構に使用した地域性のある素材></p> <p>なし</p>

各重点項目は、以下の評価項目の得点により算出されています。

①地球温暖化への配慮
LR-3 1 地球温暖化への配慮

②資源の有効活用
Q-2 2 耐用性・信頼性、Q-2 3 対応性・更新性
LR-2 2 非再生性資源の使用量削減

③敷地内の緑化
Q-3 1 生物環境の保全と創出

外構緑化指数 = $\frac{\text{中高木の樹冠の水平投影面積} + \text{低木・地被等の植栽面積}}{\text{敷地面積から建物面積(建築面積及び附属物面積)を除いた}} \times 100$

建物緑化指数 = $\frac{\text{屋上緑化面積} + \text{壁面緑化面積}}{\text{建物によって占有された部分の水平投影面積(法定面積)}} \times 100$

CASBEE-建築(新築)2016年版+あいち版手引き
(仮称)ダイヤパレスー宮駅前Ⅱ

欄に数値またはコメントを記入

■使用評価マニュアル:
■評価ソフト:

CASBEE-建築(新築)2016年版+あいち版手引き
CASBEE-BD_NC_2016(v3.0)_AICHI

スコアシート		実施設計段階		環境配慮設計の概要記入欄						全体
配慮項目	独自基準	評価点	評価点	重み係数	評価点	評価点	重み係数	全体		
	重点項目								建物全体・共用部分	建物全体・共用部分
Q 建築物の環境品質									3.0	
Q1 室内環境									3.4	
1 音環境									3.0	
1.1 室内騒音レベル		0.1	3.0	0.15	3.0	3.0	1.00	3.0		
1.2 遮音		0.5	3.0	0.50		3.0	0.50			
1 開口部遮音性能		-	3.0	1.00		3.0	0.30			
2 界壁遮音性能		-	3.0	-		3.0	0.30			
3 界床遮音性能(軽量衝撃源)		-	3.0	-		3.0	0.20			
4 界床遮音性能(重量衝撃源)		-	3.0	-		3.0	0.20			
1.3 吸音		-	3.0	-		3.0	-			
2 温熱環境									3.2	
2.1 室温制御		0.5	3.0	0.50	3.3	3.3	0.63			
1 室温		3.0	3.0	0.63		3.0	0.63			
2 外皮性能		3.0	3.0	0.38		4.0	0.38			
3 ゾーン別制御性		3.0	-	-		-	-			
2.2 湿度制御		3.0	2.0	0.20		-	-			
2.3 空調方式		3.0	3.0	0.30		3.0	0.38			
3 光・視環境									3.2	
3.1 昼光利用		0.2	2.1	0.25	3.3	3.3	1.00			
1 昼光率		0.3	3.0	0.30	3.0	3.0	0.30			
2 方位別開口		3.0	3.0	0.60		3.0	0.50			
3 昼光利用設備		-	3.0	0.40		3.0	0.20			
3.2 グレア対策		0.3	1.0	0.30	4.0	4.0	0.30			
1 昼光制御		3.0	1.0	1.00		4.0	1.00			
3.3 照度		3.0	1.0	0.15		3.0	0.15			
3.4 照明制御		3.0	3.0	0.25		3.0	0.25			
4 空気環境									4.2	
4.1 発生源対策		0.2	4.2	0.25	4.2	4.2	1.00			
1 化学汚染物質		0.6	5.0	0.60	5.0	5.0	0.63			
4.2 換気		0.4	3.0	1.00	3.0	3.0	1.00			
1 換気量		3.0	3.0	0.50		3.0	0.33			
2 自然換気性能		3.0	3.0	-		3.0	0.33			
3 取り入れ外気への配慮		3.0	3.0	0.50		3.0	0.33			
4.3 運用管理		-	-	-		-	-			
1 CO ₂ の監視		3.0	-	-		-	-			
2 喫煙の制御		3.0	-	-		-	-			
Q2 サービス性能									2.9	
1 機能性									2.5	
1.1 機能性・使いやすさ		0.4	2.4	0.40	2.6	2.6	1.00			
1 広さ・収納性		0.4	3.0	0.40	3.0	3.0	0.60			
2 高度情報通信設備対応		3.0	3.0	-		3.0	-			
3 バリアフリー計画	独自	3.0	1.0	-		3.0	1.00			
1.2 心理性・快適性		0.3	1.0	0.30	2.0	2.0	0.40			
1 広さ感・景観 (天井高)		3.0	3.0	-		3.0	0.50			
2 リフレッシュスペース		3.0	-	-		-	-			
3 内装計画		3.0	1.0	1.00		1.0	0.50			
1.3 維持管理		0.3	3.0	0.30	-	-	-			
1 維持管理に配慮した設計		3.0	3.0	0.50		-	-			
2 維持管理用機能の確保		3.0	3.0	0.50		-	-			
2 耐用性・信頼性									3.1	
2.1 耐震・免震・制震・制振		0.3	3.1	0.31	-	-	-			
1 耐震性(建物のこわれにくさ)		0.4	3.0	0.48	-	-	-			
2 免震・制震・制振性能		3.0	3.0	0.80	-	-	-			
2.2 部品・部材の耐用年数		0.3	3.5	0.33	-	-	-			
1 躯体材料の耐用年数		-	5.0	0.23	-	-	-			
2 外壁仕上げ材の補修必要間隔	②	-	2.0	0.23	-	-	-			
3 主要内装仕上げ材の更新必要間隔		-	3.0	0.09	-	-	-			
4 空調換気ダクトの更新必要間隔		-	3.0	0.08	-	-	-			
5 空調・給排水配管の更新必要間隔		-	5.0	0.15	-	-	-			
6 主要設備機器の更新必要間隔		-	3.0	0.23	-	-	-			
2.4 信頼性		0.1	3.0	0.19	-	-	-			
1 空調・換気設備	②	3.0	3.0	0.20	-	-	-			
2 給排水・衛生設備		3.0	2.0	0.20	-	-	-			
3 電気設備		3.0	3.0	0.20	-	-	-			
4 機械・配管支持方法		3.0	3.0	0.20	-	-	-			
5 通信・情報設備		3.0	4.0	0.20	-	-	-			

3 対応性・更新性				0.2	3.0	0.29	3.3	3.3	1.00	3.2	
3.1 空間のゆとり		②	階高を2.915m以上確保	-	-	-	3.6	3.6	0.50		
1	階高のゆとり			-	3.0	-		4.0	0.60		
2	空間の形状・自由さ			3.0	3.0	-		3.0	0.40		
3.2 荷重のゆとり						3.0	3.0	-	3.0	0.50	
3.3 設備の更新性						1.0	3.0	1.00	-	-	-
1	空調配管の更新性					-	3.0	0.17	-	-	-
2	給排水管の更新性			3.0	3.0	0.17	-	-	-		
3	電気配線の更新性			3.0	3.0	0.11	-	-	-		
4	通信配線の更新性			3.0	3.0	0.11	-	-	-		
5	設備機器の更新性			3.0	3.0	0.22	-	-	-		
6	バックアップスペースの確保			3.0	3.0	0.22	-	-	-		
Q3 室外環境(敷地内)					-	0.30	-	-	-	2.7	
1 生物環境の保全と創出		独自③		-	2.0	0.30	-	-	-	2.0	
2 まちなみ・景観への配慮		独自④		-	3.0	0.40	-	-	-	3.0	
3 地域性・アメニティへの配慮				0.3	3.0	0.30	-	-	-	3.0	
3.1 地域性への配慮、快適性の向上		独自④		-	3.0	0.50	-	-	-		
3.2 敷地内温熱環境の向上				-	3.0	0.50	-	-	-		
LR 建築物の環境負荷低減性										3.3	
LR1 エネルギー					-	0.40	-	-	-	4.0	
1 建物外皮の熱負荷抑制			BPI=-	3.0	4.0	0.33	-	-	-	4.0	
2 自然エネルギー利用				3.0	3.0	0.17	-	-	-	3.0	
3 設備システムの高効率化			BEI=0.84	3.0	5.0	0.33	-	-	-	5.0	
4 効率的運用				0.1	3.0	0.17	-	-	-	3.0	
集合住宅以外の評価				-	-	-	-	-	-		
4.1	モニタリング			3.0	3.0	-	-	-	-		
4.2	運用管理体制			3.0	3.0	-	-	-	-		
集合住宅の評価				1.0	3.0	1.00	-	-	-		
4.1	モニタリング			-	3.0	0.50	-	-	-		
4.2	運用管理体制			-	3.0	0.50	-	-	-		
LR2 資源・マテリアル					-	0.30	-	-	-	2.7	
1 水資源保護				0.1	3.4	0.15	-	-	-	3.4	
1.1 節水			節水機器を使用	3.0	4.0	0.40	-	-	-		
1.2 雨水利用・雑排水等の利用				0.6	3.0	0.60	-	-	-		
1	雨水利用システム導入の有無			3.0	3.0	1.00	-	-	-		
2	雑排水等利用システム導入の有無			3.0	3.0	-	-	-	-		
2 非再生性資源の使用量削減				0.6	2.5	0.63	-	-	-	2.5	
2.1 材料使用量の削減				-	3.0	0.07	-	-	-		
2.2 既存建築躯体等の継続使用				-	3.0	0.24	-	-	-		
2.3 躯体材料におけるリサイクル材の使用		②	-	-	3.0	0.20	-	-	-		
2.4 躯体材料以外におけるリサイクル材の使用		独自	-	3.0	1.0	0.20	-	-	-		
2.5 持続可能な森林から産出された木材				3.0	2.0	0.05	-	-	-		
2.6 部材の再利用可能性向上への取組み		独自		3.0	3.0	0.24	-	-	-		
3 汚染物質含有材料の使用回避				0.2	2.7	0.22	-	-	-	2.7	
3.1 有害物質を含まない材料の使用				3.0	3.0	0.32	-	-	-		
3.2 フロン・ハロンの回避				0.6	2.6	0.68	-	-	-		
1	消火剤			-	2.0	0.33	-	-	-		
2	発泡剤(断熱材等)			-	3.0	0.33	-	-	-		
3	冷媒			3.0	3.0	0.33	-	-	-		
LR3 敷地外環境					-	0.30	-	-	-	3.1	
1 地球温暖化への配慮		①	ライフサイクルCO2排出率77%	-	3.9	0.33	-	-	-	3.9	
2 地域環境への配慮				0.3	2.4	0.33	-	-	-	2.4	
2.1 大気汚染防止				-	3.0	0.25	-	-	-		
2.2 温熱環境悪化の改善				-	2.0	0.50	-	-	-		
2.3 地域インフラへの負荷抑制				0.2	2.7	0.25	-	-	-		
1	雨水排水負荷低減	独自		-	3.0	0.25	-	-	-		
2	汚水処理負荷抑制			-	3.0	0.25	-	-	-		
3	交通負荷抑制	独自		-	3.0	0.25	-	-	-		
4	廃棄物処理負荷抑制			-	2.0	0.25	-	-	-		
3 周辺環境への配慮				0.3	3.0	0.33	-	-	-	3.0	
3.1 騒音・振動・悪臭の防止				0.4	3.0	0.40	-	-	-		
1	騒音	独自		-	3.0	1.00	-	-	-		
2	振動	独自		-	-	-	-	-	-		
3	悪臭			-	-	-	-	-	-		
3.2 風害、砂塵、日照障害の抑制				0.4	3.0	0.40	-	-	-		
1	風害の抑制			-	3.0	0.70	-	-	-		
2	砂塵の抑制			-	3.0	-	-	-	-		
3	日照障害の抑制			-	3.0	0.30	-	-	-		
3.3 光害の抑制				0.2	3.0	0.20	-	-	-		
1	屋外照明及び屋内照明のうち外に漏れる光への対策			-	3.0	0.70	-	-	-		
2	屋光の建物外壁による反射光(グレア)への対策			-	3.0	0.30	-	-	-		

重点項目スコアシート
 (仮称)ダイヤパレスー宮駅前Ⅱ

実施設計段階

■使用評価マニュアル CASBEE-建築(新築)2016年版+あいち版手引き

■評価ソフト: CASBEE-BD_NC_2016(v3.0)_AICHI

重点項目(配慮項目)	評価点	全体に対する 重み係数	重点項目スコア
① 地球温暖化対策			3.9
LR3-1	地球温暖化への配慮	3.9	0.10
② 資源の有効活用			2.7
Q2-2	耐震性・信頼性	3.1	0.09
Q2-3	対応性・更新性	3.0	0.09
LR2-2	非再生性資源の使用量削減	2.5	0.19
③ 敷地内の緑化			2.0
Q3-1	生物環境の保全と創出	2.0	0.09
			外構緑化:43.4%/建物緑化:0%
④ 地域材の活用		(評価ポイント)	1.0
Q3-2 4)	地域性のある素材による良好な景観形成	0.0	-
Q3-3.1 I 2)	地域性のある材料の使用	0.0	-
			なし
			なし

■重点項目スコア算出式

各重点項目スコアは、以下の方法により算出されています。

①地球温暖化への配慮、③敷地内緑化

重点項目スコア=各配慮項目の評価点

②資源の有効活用 (評価点×全体に対する重み)の総和

重点項目スコア= 重みの総和

④地域材の活用

重点項目スコア=評価ポイントの合計+1

■ 環境設計の配慮事項

■ 建物名称 (仮称)ダイヤパレスー宮駅前Ⅱ

計画上の配慮事項	
総合	有害性のものを使用しない
Q1 室内環境	F☆☆☆☆を使用
Q2 サービス性能	各階高を2,915m以上確保
Q3 室外環境(敷地内)	建物の外壁色等の色彩に考慮すると共に、緑化を適度確保
LR1 エネルギー	省エネ等級4を取得し環境負荷の低減に配慮した。
LR2 資源・マテリアル	節水型の住設機器を使用
LR3 敷地外環境	敷地内に駐車施設、駐輪施設を適切に確保
その他	注) 上記の6つのカテゴリー以外に、建設工事における廃棄物削減・リサイクル、歴史的建造物の保存など、建物自体の環境性能としてCASBEEで評価し難い環境配慮の取組みがあれば、ここに記載してください。